

■序章

- 1) 音楽(music)
 - 2) 音
 - 2-1) 音の三要素 (音の三属性)
 - 2-2) 音波と波形
 - 2-3) 純音と正弦波
 - 2-4) 音強(loudness)
 - 2-5) 音高(pitch)
 - 2-6) 音色(tone color/timbre)
 - 3) 音の種類
 - 3-1) 純音(pure tone)
 - 3-2) 楽音(musical sound)
 - 3-3) 雑音(unpitched sound)
 - 4) 倍音(高調波/harmonic overtone)
 - 5) エンベロープ (emvelope/包絡線)
 - 6) 音律と音列
 - 7) 旋法(mode)
 - 8) 移調楽器
-

1) 音楽(music)

“過去から現代へ” 音楽は時間を越え、国を越え、人種を越えて、遙か数千年に渡り脈々と受け継がれてきました。音楽は聴く者に様々な感情を抱かせ、時に言葉を凌ぐ程の表現力で感動を与えてくれます。それは太古の人類にとっても同じだったのではないのでしょうか？

音楽家達は長年に渡り常に新しい楽曲を創造し、今までに無い未知の音楽を追い求めてきました。それと同時に様々な作曲技法や楽器などが考え出され、それは現在も音楽の基礎として使われています。

そして今日、音楽は更に変化を重ねながら日々新しい作品が生み出されています。特に近年では電子楽器や電気楽器、録音機器やパソコンなどの発達が音楽製作や作曲の方法に大きな変化をもたらしました。また音楽に関する研究は物理学、心理学、生理学などでも行われ、様々な側面から捉える事ができます。

これらの事から、現代の音楽家は最新の楽器や音楽製作の知識を深める一方、先人達が考え出した音楽理論や演奏技術など、多くの事を学ぶ必要があると言えるでしょう。※1

※1 音楽に関する学問的研究を総称して「音楽学」(musicology)と呼ぶ。音楽の研究対象や体系は、その時代によって変化しているが、おおよその学問がある。「記譜法」「音楽理論史」「音楽文献学」「楽器学(楽器分類学)」「音楽音響学」「音楽生理学」「音楽心理学」「民族音楽学/音楽民族学(比較音楽学)」「音響心理学」「音楽美学」「音楽哲学」「音楽教育学」「音楽社会学」「音楽通論」など。